

第8講 図書登録実習 4

p.89-94

このコマで理解して欲しいこと

1. 書誌レコードと所蔵レコードの修正の方法

このコマの進め方

1. テキストによる説明
2. テキストの例題を全員で行う
3. 登録課題集を全員で行う

<時間配分の目安>

	50分
テキストによる講義・実習	20分
課題集実習・解説	30分

説明のポイント

p.89	<p>1. 書誌修正の手順</p> <ul style="list-style-type: none"> ● 流れ図に沿って手順を解説。図書登録実習の最後のコマなので、復習を兼ねて登録総論の全体図(p.53)を使って説明するのもよい。 ● 修正が最後になっているのは、直してよい場合を判断することが難しいためであり、補講3で書誌修正指針、「書誌調整」についての説明があることを予告する。 ● 修正は「多巻もの(出版物理単位に分かれているもの)の巻冊次等の追加」「書誌を充実させる」「間違いを直す」場合のみである。この実習では「多巻もの」について行う。 ● 「固有のタイトルでないもの」により複数の出版物理単位に分かれている場合の書誌レコードの形は第6講 書誌流用入力(参照ファイル・出版物理単位)で行っているの、思い出してもらおう。ただし、ここでは既存の総合目録データベースの書誌レコードを修正するという点で異なるという点に注意する。
------	---

p.90-94	<p>2. 書誌修正(出版物理単位の追加)</p> <ul style="list-style-type: none"> ● p.91「例題のポイント」は重要なので、必要箇所を復習する。 <ol style="list-style-type: none"> 1. 「固有のタイトルでないもの」 → p.21 出版物理単位 → p.22 2. 新たに別のレコードを作成しないこと → p.83 ● 必ず全員で同時に講師の指示にあわせて実習する。総合目録データベースのレコードを修正するため、先に修正されると、実習ができなくなる。 ● 講師もしくは補助者が、実習の直前に、書誌レコードが先に修正されていないかどうかを確認することが望ましい(修正されていた場合は、テキストを参考に、修正前の形に修正し直しておく)。 ● 今回は、「上」巻に対する書誌レコードに対して修正を行うことが新たな事柄である、ということを冒頭で説明する。所蔵レコードは既に登録されている。 <p>テキストの例題を受講者一斉に行う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 情報源により、レコードの形を推測する。 2. 検索の結果、総合目録データベースにヒットしたレコードを確認し、出版物理単位の追加を行う。挿入位置にも注意を促す。 3. 書誌は共有、所蔵は固有のデータだということを再度確認し、VOL の扱いの違いに注意する。 <ul style="list-style-type: none"> ● 書誌レコードを登録してしまうと、最後に登録されたものしか残らないので、確認は書誌レコードを登録する前に行う必要がある。 ● 全員が修正を終えた後で、再検索してみると、最後に修正した 1 件だけが表示される。これまでの書誌流用入力と違い、ひとつの書誌レコードが次々上書き保存された結果だということを示すことができる。
---------	---

登録課題集 課題51-55(p.104-112)使用

- 受講者1人に1書誌を準備してある。
- 各書誌には、予め所蔵レコードが登録されていることとそのVOLを伝えておくと受講者が混乱しない。仕込みの所蔵レコードはそれぞれ下記の通り。

課題		
51	4	下に8を追加
52	第2巻, 第5巻	間に第3巻を追加
53	v. 5	上にv. 2を追加
54	v. 3	下にv. 4を追加
55	なし	

【個々の課題についての注意点】

- 完結しているかどうかの判断も情報源から推測する必要がある。
課題はどれも推測可能な例である。

- テキストで実習した修正点（VOL等のセットやYEAR, PUB, PHYS, PTBNO）以外にも、既存のレコードのNOTEにも注意が必要な課題（課題54）が含まれている。また一方受講者の中には、ポイント以外にも注意をはらい、出版者が情報源と違って修正すべきか悩む人もいるが（課題53）複数の物理単位からなる資料については、刊行途中で出版者が変わっても同一書誌として扱う。また、作成館と協議が必要なフィールドに関しては後の補講3（書誌修正指針）を予告する。
- 課題51が、ISBN13桁の課題となっている。13桁はISBNフィールドへ、10桁をXISBNへ記述することの補足説明が必要である。
- 課題52は角書き「新編」の扱いがわからない受講者がいるので、その場合の助言が必要である。
- 課題54は責任表示が情報源とレコードとで異なる例。このように巻の途中で責任表示（の順番）が変わる場合、NOTEにVol. 4のeditorを注記してもよいことを解説する。（NOTEなのでカタログガーの裁量）
- 課題55は**バランスしない書誌構造**のVOL追加の課題（平成24年度テキスト改訂で追加）。固有のタイトルとみなせない「総目録」と「総索引」は、親書誌レコードのVOLフィールドを追加して記入し、所蔵レコードは例外的に親書誌にリンクすることを説明する。